

第 12 回
桜美林大学留学生日本語スピーチコンテスト

日時 2013年6月29日（土）

会場 桜美林大学国際寮大ホール

文集



2013年

桜美林大学日本語文化学院（留学生別科）

目次

まえがき

3

言語を学ぶ意味

4

（発表順）

曹 雪倩 （中国）

私の考える真の豊かさとは

8

トゥムルバートル ツエルメグ （モンゴル）

モンゴルの遊牧民の生活

10

ドアン ティ テウイ ズオン （ベトナム）

ベトナム語の美しさ

13

楊 興海 （中国）

源氏物語の世界—私たちの世界—

15

章 麗思 （中国）

私の日本語の勉強を始めたきっかけ

18

ガンバートル チメデルハム （モンゴル）

大嫌いから好きになった言葉「具体的」

20

胡 楊傑 (中国)	幸せになること	23
王 震 (中国)	いくつもの初めてがあるからこそ、人生が豊かになる	25
フレルバトル サインサナー (モンゴル)	あなたの知らないモンゴル	28
ブイ テウ クエン (ベトナム)	両親について考えていること	30
張 祥 (中国)	中日飲食文化比較	33
章 佳麗 (中国)	私の留学生活	35
エルベグダワー ソヨルマー (モンゴル)	いらっしやいませ!	38
俞 天昊 (中国)	初心忘るべからず	41

講評と賞の概要

まえがき

六月二十九日、第十二回の留学生スピーチコンテストが開催されました。十四名の留学生がスピーチを行いました。

いよいよ学期末も近づき、授業での発表や期末レポートなどで何かと気ぜわしく過ごす時期でしたが、十四名の留学生は真剣に取り組んでくれました。スピーチの内容といい、日本語による表現や態度といい、来場者の皆さんに深い感動を与えるものばかりでした。

会場は淵野辺駅に近い本学の国際寮の大ホールであったので、寮に住んでいる学生や近隣の住民も来てくれました。会場は感動の渦に包まれました。特別ゲストにはここにこ星ふちのべ協同組合の萩生田さんにおいでいただきました。審査員には別科の先生や学群の先生が来てくださいました。深くお礼を申し上げます。

より多くの皆さんに日本で学ぶ留学生の心の声をお伝えし、交流を深め、感動を共有したいと考え、ここに十四篇のスピーチを収載し、第十二回桜美林大学留学生日本語スピーチコンテストの文集を皆さんのお手元にお届けいたします。

外国語を学ぶということは一体何を学ぶことなのかと考えることがある。言語には絶えず変化をするという性質が備わっている。ただしその変化とは、私たちが常に認識したり実感したりすることができるほどには、急激かつ顕著なものではない。もしも急速に言語変化が生じるようなことがあれば、意思や情報を伝達する道具としての言語が本来果たすべき機能を失ってしまう恐れがある。昨日まで十分にことばが通じ合っていた人々の間で、翌日になつたら全く通じなくなってしまうた、というようなことは聞いたことがない。もしそのようなことになれば、私たちの日常生活において様々な点で大きな支障や混乱が生じることになる。

私は今日まで英語の歴史の研究に携わってきた。英語はその歴史上、およそ四十年ないし五十年という間隔を置いて前後の文献を比較してみると、その言語の特徴に多少の変化が起こっていることが確認できる。とは言え変化する要素よりも変化しない要素の割合の方がはるかに大きい。また言語の変化は人々の予測が可能な程度に生じるのだと考える。そのため、言語は何世代にもわたって継承されて現在に至っている。年配者と年少者との間でも、こと

ばを介して互いに理解し合うことができるのも、言語が持つそのような特徴に因るものである。その言語が直に用いられていないような言語環境においても、学び、習得することは可能である。昨今、茶の間に居ながらにして世界中の出来事を瞬時に知ることができる情報環境が整ってきた。そのことによつて、外国語と接触する頻度が急激に高まっている。マスメディアを通して情報を得ようとするならば、大変便利な時代になった。

言語は人間のみが用いる最も精密かつ高度で、汎用性に富む記号体系である。その記号を駆使して、ありとあらゆることが表現できる。そこで用いられる記号は意味と密接に関連づけられている。その記号の種類やそれを用いるための約束事（＝規則）について学ぶ作業が言語学習に相当するものである。その規則を知らなかったり、正しく理解できなかったりする者には、その言語を正しく用いることはできないはずである。

仮に言語がある程度上手に使えるようになったとしても、その言語の母語話者が実際に生活の手段としてその言語を用いているような環境の中に身を置いて、彼らと一緒にさまざまな経験を積み重ねなければ、個々の使用場面に相応しいごく自然な言い回しを身に付けることはできないだろう。その言語圏で実際に生活をしてみて初めて知ることが多い。その点で留学は絶好の機会となる。言語はあくまでも便利な道具に他ならない。道具であるからには、それが有効に使えるように精度を高め、機能の強化を図ることが大切である。実際の使用場面

において、当該言語を使用する機会が多ければ多いほど、練習を重ねれば重ねるほど、その精度が高まってゆく。

言語はそれが用いられている社会（＝言語社会）の性質を顕著に反映しているものとなっている。言語、社会、そして人間との間には密接な関わりがある。そのため言語のみを切り取って学ぶということは余り意味のないことだと思ふ。言語を通してそれが用いられている社会や文化、それをを用いる人々の生活様式や発想法（＝ものの考え方）について学び取ることにこそ言語学習の真の意味がある。それを学ぶための最良の方法は、その言語が用いられる地域に行き、その地で暮らし、その言語の母語話者と直に接しながら、ことばを磨き、経験を積むことである。また、異文化社会や異言語社会の中で一定の期間住むことは、単眼的ではなく複眼的に世界が見られるようになったり、その後の世界観やものの考え方に大きな影響を及ぼしたりするであろう。その時期が早ければ早いほど、若ければ若いほど、その効果は大きいものと思う。外国で暮らすことには多くの困難が伴い、外国語を習得することは決して容易なことではない。それに付随する苦労や困難を乗り越えた者のみ、その言語を駆使することを可能にする能力が身につくのだと思ふ。語学の習得に「王道」はない。忍耐と努力を重ねた者や、決して諦めずに練習と訓練を続けた者のみに与えられる褒美であり勲章である。

本文集に掲載されている十四篇の原稿は、日本語を母語とする人々が書く文章に決して引けを取らない素晴らしい文章である。そのような水準にまで日本語力を高めるのには、一人ひとりが多くの困難と闘い、弛まぬ努力を重ねてきたものと推察する。今後も引き続き日本のことばを磨き続けてくれるようにと願っている。そして日本語の魅力、日本の素晴らしさについて、母国の人々に語り続けていただきたい。

「真の豊かさとは何ですか」と聞かれたら、あなたはどうか答えますか。答えはきっと人それぞれだと思います。私にとって、真の豊かさは目標を実現するために、努力した後の満足感です。

冬休みに、高校の同窓会があつて、久しぶりに昔の友達と会いました。友達には、すごくお金持ちのお嬢様がいます。もう大学三年生ですから、将来の進路について、みんなで話し合いました。「ねえねえ、留学とかしたくない？」と私は彼女に聞きました。「ううん、別に。外国に行きたかったら、旅行でいけばいいじゃん。どうせ私は卒業して、父さんの知り合いの御曹司と結婚するから。あくあ、この生活むなしと思わない？」と彼女は答えました。

裕福な生活を送っていて、親が用意してくれた道を歩む彼女は「生活が空しい」と言いました。最初、私はちよつと思議に思いましたが、よく考えてみると、努力もせず、簡単に幸せを手に入れられるなら、決して幸せを感じられません。その満足感が得られません。「広辞苑」によると、豊かさとは物が豊富で、心が満ち足りているさまです。しかし、ただ物質的に豊富なだけでは、決して真の豊かさとは言えません。お金持ちと豊かな人は違います。お金で

得た満足感ほもろいもので、すぐ消えてしまうと思います。

真の豊かさは自分が目標を実現するために、努力した後の満足感だと思います。自分の手で作るもので、自分の心で感じるものです。世界一流の会社、アップルの創始者のジョブズはこういました。「目標は私たちに生活の目的と意義を与えます。もちろん、目標がなくても私たちは生きていられますが、しかし、本気で、幸せに生きていきたくかったら、私たちは生活の目標を持たなければなりません」まさにその通りで、目標がある限り、その目標に向かって、有意義な毎日を過ごし、時間を大切に、毎日努力する気も湧いてきます。頑張つて自分の目標を達成した後、その心から湧いてくるうれしさと幸せは、他の人には分からないものだと思います。それは決してお金で買えるものではありません。その満足感こそ、真の豊かさだと思います。

「お金があれば、何でも出来る」という話をよく耳にしますが、私は必ずしもそうは思いません。お金持ちが必ず豊かな人だとは断言できません。真の豊かさは心から湧いてくる満足感です。その満足感とは、自分の努力による、目標達成後の幸せだと思います。みなさん、一緒に心の豊かさを求めましょう、この青春の日々に。

モンゴルの遊牧民の生活

交換留学 トウムルバートル ツェルメグ

「モンゴル」と聞いて、みなさんはどのようなものを考えるでしょうか。「強いお相撲さん」、「のんびりとした大草原の生活」。世界中の多くの人がモンゴルの遊牧民をうらやましいと思うようです。今日は、モンゴルの遊牧民の生活と文化について、お話します。

私は小さい子どものとき、家族と田舎へ旅行に行きました。そのとき、私たちの車が壊れてしまいました。それで、私たちは近くの遊牧民の家（ゲル）に行きましたが、家の中には誰もいませんでした。私はその時、「家を出るときにかぎをかけないだ」と思いました。家の中でも自分の部屋にかぎをかけているような今の時代に、遊牧民はかぎをかけません。そして、一時間ぐらいその家で待っていたら、その家のお父さんが来ました。私はその時、「人の家に誰もいないのに、私たちは勝手に家に入ったので怒られる」と思って、少し怖がっていました。でも、その家の人は全然気にしないで、逆に「どうぞ、食べてください。」と言って、私たちにパンと乳製品を出してくれました。これが、私が初めて遊牧民に会ったときのことです。

こんなこともありました。四年前、ある遊牧民の方が「いつもお世話になって、ありがとうございます。」と、私の母に二頭のヤギをプレゼントにしてくれました。その二頭は、その方が大事に育てて

くれました。そして、去年、その二頭のヤギをもらいに行くと、なんとヤギは九頭になっていました。私たちは「九頭にまで育ててくれたんだ」と思って、びっくりしました。その後、その九頭のヤギは他の遊牧民の方が預かって、世話をしてくれています。このように、モンゴルの遊牧民の方たちは親切だし、人の家畜でも大事に世話して、二頭から九頭まで増やしてくれるし、とても優しいでしょう。

私が初めて遊牧民に会ってから十年、今、私は大学生になりました。今モンゴルで私の通っている文化教育大学は、私たちに授業だけではなくて、モンゴルの習慣と遊牧民の生活を体験して学ぶために、夏になるとキャンプをします。私はそこで馬に乗ることや、どうやってゲルを建てるかなど、色々なモンゴルの伝統的な習慣を学びました。そして、去年、私は桜美林大学とモンゴル文化教育大学の学生たちが一緒に行う「モンゴル環境研修」の活動に参加しました。日本人の学生ともモンゴル人の学生とも色々なことを学びました。実際に遊牧民の家に泊まって、家畜の世話などをしながら、忙しくものんびり過ごす草原の一日というのは、本当に素晴らしいことでした。この活動に参加して、私は今でも「良かったな」と思っています。

ところが、残念なことに、世界中のどこの国でも大きな問題になっている「どうやって国民の文化と習慣を守っていくか」ということが、モンゴルでも起きています。モンゴルの遊牧民は最近どんどん減っています。国は遊牧民の伝統的な文化を守るために、色々なことをやって

頑張っているらしいのですが、やはり一人一人の気持ちと考えを変えなければならぬと思います。そうしたら、遊牧民というものが何年も存在していくでしょう。

私の出来ることは、遊牧民がくれた九頭のヤギを育てることではないかと思えます。私は自分が遊牧民になるということはできませんが、遊牧民の方に感謝して、ヤギを育ててもらっているお札やえさのお金を出すことはできます。そして、私が知っている遊牧民の生活や優しさを、子どもたちや世界の人たちに伝えることもできます。

世界には、モンゴルの遊牧民の文化のように、アメリカのインディアン文化、オーストラリアのアボリジニー文化など、昔からの文化がたくさんあります。でも、世界のいろいろな文化がなくなって、一つの文化だけが残っても面白くないでしょう。モンゴルだけではなく、世界中の色々な文化にも興味を持って、色々なことを学んだら、他の国の文化も守ることもなるだろうと、私は思います。

ベトナム語の美しさ



特別賞

交換留学 ドアン ティ テウイ ズオン

私は今、桜美林大学で勉強しています。来日して、半年が経ちました。この期間は私に、世界中の学生と交流する貴重なチャンスを与えてくれました。大学の授業や交流プログラムを通して、日本のみならず韓国、中国、モンゴルなどの国々のこともより詳しく理解できてきました。私は授業のおかげで、色々なことが理解できましたが、その中でも一番興味を持ったことは言葉が変化していくことです。

先学期、授業の中で、「日本語の乱れ」というテーマがありました。クラスメートで意見を話し合いました。それを通して、日本のみならず、世界中の国々でも、言葉の変化に関する問題を抱えていることが分かりました。「やはり言葉は時代とともに変わっていくものだ」と気が付きました。ベトナムもその問題に関して例外ではありません。

ベトナムは、今グローバルリズムへ進んでいる途中の段階です。グローバルリズムへと進む過程でベトナムは経済、科学技術、社会を全面的に発展させました。この点で、グローバルリズムは社会の発展に有利な条件を与えたことができます。しかし、グローバルリズムの影響によって、ベトナム語が元々の美しさを失う可能性もあります。現在のベトナム語は若者の言葉や

外来語によって乱されていると感じるからです。例えば、ベトナムでは、現在、若者は一つの文章の中にベトナム語と英語を同時に使うようになっていきます。そして、インターネットなどのメディアの影響によって、若者が自分の文書にITの記号や略語を使う現象が急速に増加しています。結果として、ベトナム語を使う機会が減り、ベトナム語を正しく使えない人が増えています。

言語はやはり、時代とともに変わっていくものです。しかし、そのような現象が続けば、「正しいベトナム語」、「美しいベトナム語」は今後、存在できなくなるかもしれません。世界において、母語というのは国家の貴重な財産のみならず、その国を象徴するものではないでしょうか。ですから、民族の財産であり文化であるベトナム語はどのようなかを人々が意識し、どうやってベトナム語の美しさを残し、維持するかを考えることは重要なことだと思っています。

日本語を学ぶことで、ベトナム語の美しさを改めて知ることができました。これからも、日本語の勉強を続け、たくさんの人々とコミュニケーションすることで、ベトナム語の美しさを伝えていきたいと思えます。

源氏物語の世界―私たちの世界

リベラルアーツ学群 楊 興海

皆さん、こんにちは。今日私は世界一古い長編小説として知られている「源氏物語」について、読んだ感想を述べさせていただきますと思います。

「源氏物語」は千年前に書かれた小説で、当時の世間、思想、貴族階級の生活がその中に反映されています。これを読むと、千年前の人々はどういう生活をしていたかが目に浮かんできます。そして、今の私たちの世界とこんなに違いがあるんだということも分かります。当時の常識を現代におきかえてみると、間違いなく非常識であり、理解できないこととなってしまいます。しかし、作品を読みながら源氏と貴族たちの行動や言論を理解しようとする思考のプロセスは僕にとって、一番の楽しみでした。例えば、平安時代では現代と違って、女性は簡単に男性と話すことも、自分の容姿を披露することもできませんでした。貴族の女性たちは、男性に顔を見られないように行動し、謹慎した生活をしなければならなかったのです。今から見ると、まるで究極の人見知り、あるいは引きこもりにしか見えなかもしれませんが、平安時代では常識でした。そういう時代だから、恋に落ちることも、恋をすることも現代のパターンと全然違います。顔さえ分からず、ただどこからかその女性の美貌と才能の噂を耳にして、男性

が勝手に女性のイメージを作り上げるだけでした。そのイメージを思い込んで、女性のところまで行って、恋の歌を作って告白することが一般的でした。源氏と末摘花の恋物語では、男女の関係があった次の日までは、源氏が末摘花の顔さえはつきり分からず、顔を見てびっくりしたという話が出てきます。私はそういう展開にとっても驚きました。

光源氏は生まれつきの美貌、才能、地位を持って、数多くの美人を愛人にすることができました。当時の人々から見ると、それは羨ましい限りと言えるでしょう。しかし、現代の私たちにとって、羨ましいことかどうかを考えて見ると、案外面白い結論が出てきます。その理由は我々と平安時代の人々の美に対する認識が違うからです。例を挙げると、若い紫の上が源氏のそばで育てられて、美しい少女に成長し、化粧を始めました。歯をお歯黒に染め、眉を抜いた若い紫の上を見た源氏は極めて美しいと感動しましたが、私たちは少女のこういう変貌を見ると、残念としか感じられないでしょう。

「源氏物語」は読めば読むほど、掘り出せるものが多く、奥の深い本だと感じたと同時に、堅苦しい本だと思わずに、気軽に読んでみると、様々な感動が得られました。私たちには千年後の出来事を予想することはできませんが、千年前の物語を探索することはできます。これもある意味でのタイムスリップだろうと考えてみると、ロマンチックな感じがします。そして、「源氏物語」が千年の間重ねてきた感動を私たちの世界でこれからも千年、二千年ずっと伝え

ていくだろうと思いました。

私の発表は以上で終わります。ご清聴ありがとうございました。

私の日本語の勉強を始めたきっかけ



特別賞

留学生別科 韋麗思

私は日本語の勉強を始めたきっかけについてお話ししたいと思います。

日本語の勉強を始める前、私は毎日モンゴル語か中国語の本を読んで、専門科目の勉強をしていました。私が大学四年生だった時、親しい友達の一人が突然日本語の勉強を始めると言い出しました。その理由を聞くと、友達は「私は大学院に進学するつもりだ。大学院で論文を読んだり書いたりするのは当たり前のこと。今私が知っている言葉はモンゴル語と中国語だけだ。論文を書く時、日本語の文献を参考にしなければならぬから、学ぼうと思った。また、一つの言語を多く習得できれば、視野が広がり、見識も増えることになるだろう」と応えました。

モンゴル語には一つの諺があります。これは「*Монгол хэл* (フラバイバルフルテ)」です。日本語に直訳すると「言葉があれば、足がある」となりますが、これは「言葉を習得すれば、視野が広がり、どこでも困ることなくやって行ける」という意味です。私も以前から日本語に興味があつて、いつか習いたいと思っていました。彼女が日本語を学び始めたことに共感して、そろそろ私も始めてもいい時期ではないかなと考え、去年の九月から日本語の学習に乗り出しました。

日本語を勉強しているうちに、この勉強を通して、日本文化をだんだん理解するようになりました。例えば、日本人はものごとを言う時、相手の立場を考えて、尊敬語と謙譲語を使い分けています。職場や学校を休む時モンゴル語や中国語でしたら「私は休みたい」と直接言うところ、日本では「休ませていただけませんか」と謙譲語を使うのが普通です。

私は三月に日本に来てからもう三ヶ月経ちました。今は日本語の勉強が生活の中心になっています。日本語が早くうまくなって、日本の生活に一日でも早く馴染みたいと思います。大変ですが、これからも一生懸命頑張っていくつもりです。

ご清聴ありがとうございます。

大嫌いから大好きになった言葉「具体的」

特別賞

リベラルアーツ学群 ガンバートル チメデルハム

皆さんはどんなヒトが自分に自信を持っている人だと思いますか？私は「具体的」と答えます。何をするか、しないかが具体的に分かっている人が自分に自信を持っている人です。できないのに「できる」と口に出す人は、自分に自信を持っていない人ではありません。何も言わないけど、何をするか、できるか自分の中でよく整理し、具体的に分かっている人が、本物の自分に自信を持っている人だろうと、私は思います。今日は、この「具体的」という言葉について、私の思い出と考えをお話します。

私は、はじめて日本に来たことを昨日のことに覚えていています。日本語の使い方から初めて一人暮らしの生活まで、困ることがたくさんありました。高校のときからずっと学んできた日本語では、大学の講義を聴いても理解することは非常に難しかったです。そんな私が桜美林大学で受けた専門日本語という授業は非常に役に立ちました。しかし、本当にあきらめなくなった時もありました。授業では、先生からいつもある一つの質問が来ました。それは、「具体的理由を教えてください」。正直に言うと、私はこの質問が大嫌いでした。何か答えたいけれど、そのときの日本語力では答えられなかったのです、ただ座っているだけの私…。このよ

うな質問が来ると、私はいつも本当に困っていました。

異文化という点から考えると、モンゴルには「具体的」という考え方があまりないような気がします。例えば、モンゴルの大学には、日本の大学のように毎週その日の授業の計画（レジュメ）を配る先生はいません。友達と会う約束をするときも、しつかりした時刻ではなく、「朝、昼、夜に会おう」というように約束します。このように「具体的」という考え方をよく意識していなかった上に、今よりも日本語力が低かった私は、この「具体的」という言葉が大嫌いになってしまったのです。

しかし、今考えてみると、「具体的」という言葉の背景には、とても大きな思想のようなものがあると思います。この言葉のなかに日本が発展してきた秘密があるかもしれないと、私は考えます。

どんなことをする時も、きちんと日時を当たり前のように計画する日本人。失敗しないように、具体的に準備する日本人。私にはそのような習慣や考え方や能力がありません。そのような日本人の力を私も持ちたい。道を聞いたとき、具体的に教えてくれる日本人。その優しさを私も持ちたい。一つのことを始めたら、具体的に知識や力を得るまで学ぶ日本人。その姿勢を私も持ちたい。

日本人と出会ったことは、私の人生で一番良かったことです。そして、もつと言うと、私に

ない「具体的」を持っている日本人から学びたいです。日本に留学している学生の皆さんにも言いたいです。日本人から学ぶものはたくさんあります。大学生活で勉強することは大事だけど、それ以外のことも私たちは留学生として日本から学ぶべきだろうと思います。

幸せになるバイト

リベラルアーツ学群 胡 楊傑

日本での大学生活はもうはや二年半になります。実は、最近日本での生活がだんだん退屈だと感じてきました。

それは世の中がつまらないからではなく、自分がつまらない人間になっただけです。私自身が経験を積むことで、何も楽しいと思えないつまらない人間になりました。

世の中、色々な初めてのことは楽しかったです。日本で初めての友だち。初めての受賞。初めての宝くじ。初めての花火大会。初めての恋愛。今思い出しても、楽しく感じます。

一年生の時、サークルの皆で一緒にBBQへ行きました。大自然の中で、BBQの道具を借りて自分でおいしい肉を焼くのは初めてでした。あの時は、西瓜割りのゲームもしました。買った西瓜を川の中で冷やし、目をつぶって西瓜を割りました。きれいに割れませんでした。その西瓜は本当においしかったです。炎天下だったので、食事の後の水遊びはとても楽しかったです。

しかし数回参加すると、だんだん飽きてしまい、今は学校のBBQに興味がなくなりました。家でゆっくり休んだほうが楽だと思ふようになりました。

つまり、恵まれた環境にいても、それを恵まれていると思えなくなります。確かに、一度上のランクに至ると、自分から下には戻れません。今の私はおそらく、簡単に手に入る幸せは、目に入らなくなったのだと思います。

上に行っても上に行っても、まだ上に行きたくなります。でもいつか限界は来ます。そこで停滞してしまった時、その人は世の中がつまらないと感じるつまらない人間になるでしょう。地球は全世界の人を満たせますが、全世界の人の欲望は満たせません。だから、上に行くことを考えないで、現状でそこそこ幸せにやればいいのではないのでしょうか？

もちろん、現状のままでは、文明の進歩はないという意見もあります。確かに、人間の欲望があるから、人類の文明はここまで発展してきました。しかし、その発展によって、大きな問題が表れました。軍備競争、資源の無制限利用、地球温暖化、原子力問題など、むしろ人類の生存をおびやかしています。

ですから、私たちは満足しやすい人間になりましょう。世界は変えられませんが、自分の考えは変えられます。一生懸命頑張るのも幸せになるためでしょう？上に行けば行くほど満足しにくくなります。だったら今の生活に満足するようになり、今から幸せになりましょう。

いくつもの初めてがあるからこそ、人生が豊かになる

特別賞

ビジネスマネジメント学群 王 震

皆様こんにちは。

桜美林大学ビジネスマネジメント学群の一年生、王震と申します。今日は「いくつもの初めてがあるからこそ、人生が豊かになる」というテーマについて話したいと思います。人間は一生のうち良し悪しにかかわらず、いくつもの初めてがあるでしょう。その中できつと自分の考え方や人生の道に影響を与えるものがあると思います。

例えば、小さい頃両親に叱られたり、叩かれたりしたことがあるはずですが。その時のことを思い出してください。両親に対して不満や怒りなどを覚えなかったでしょうか。両親がうるさいとか、自分のことを理解してくれないとか。そう思わなかったですか？私は何回かありましたが、初めて親のそばを離れたとき、その時の自分は甘かったということがわかりました。自分のことを反省することができました。前の自分は、ただ叱られたということは覚えていましたが、どこが悪かったか、どうしたらいいかということ一度も考えませんでした。両親はただ私達に反省してほしいだけなのに、私達は話さえ聞きませんでした。それに気づいてから、私は初めて、他人の話をちゃんと聞いて、考えて、いい意見なら直すようになりました。よく

なくても、意見を言ってくれる方に感謝しなければいけないということを今は理解しています。なぜかという、自分は自分の問題がわからないものだからです。

次は、初めて、ホテルの仕事をやった時のことです。ホールの簡単な仕事でしたが、頑張れば、お客さんが笑顔で返してくれるので、うれしくて、自分が役に立つことができるということを感じました。そのうちに、この仕事が好きになりました。そのおかげで、将来、ホテルで働くことを決めました。ところが、そのうちだんだん難しい仕事をするようになったのですが、初めて管理に関する仕事をやってみた時、うまくできませんでした。その時、初めて自分の知識のなさを痛感し、もっと勉強したいという気持ち湧いてきました。勉強したいと思って、いろいろ考えた結果、日本に留学することにしました。

なぜ、日本を選んだかという、また、初めての話に戻ります。それは初めて知った外国が日本で、最も知っている外国が日本だからです。例えば、日本の相撲選手は体が大きいとか、日本人はよくお寿司を食べるとか、よく温泉に入るとか。さらに、初めて食べた外国料理は日本のカレーライスで、初めてもらった外国の本は日本の漫画でした。小さい頃のこれらのことから、そのようなきっかけがいくつあったからこそ、日本に興味を持ち始めました。

このように、我々の人生にはいくつかの初めてがあります。初めてがあるからこそ、たくさんの経験や勉強につながります。そして、知らない間に、自分の人生はたくさん初めてのよ

って決められて、繋がれていく可能性があるでしょう。私の場合がそうだと思います。人間の人生は短いので、できるだけ豊かにしたいと思います。そのために、これからもたくさん初めての出会いを期待しています。

これで、私のスピーチを終わりにいたします。

ご清聴ありがとうございます。

あなたの知らないモンゴル

第二位

リベラルアーツ学群 フレルバトル サインサナー

皆さん、こんにちは。リベラルアーツ学群一年生のフレルバトル サインサナーと申します。モンゴルから来た留学生です。

スピーチを始める前に、皆さんに一つ聞きたいことがあります。「モンゴルと言えば、皆さんの頭にどのようなイメージが思い浮かびますか？」やはり多くの人は大草原や相撲などの牧歌的な風景のことをまず思い浮かべると思います。確かに、モンゴルは昔から大自然をそのまま保護することを大事にしてきた国です。ですから、モンゴルの星空や大自然は他の国で見られないほど奇麗だと私は誰の前でも自信を持って言えます。

しかし、今日のスピーチでは皆さんの知らないモンゴルを紹介したいと思います。一九九〇年代からモンゴルは市場経済化が進展し、それに伴いモンゴルは経済面から社会面まで大きく変革することができました。こうしたチャンスをつ捉え、モンゴルの経済は急速に発展してきました。例えば、近年モンゴルの鉱山業は世界的に評価されるようになり、多くの海外の会社から注目されるようになりました。そのため、現在のモンゴルは既に皆さんの考えているモンゴルからかなり離れています。モンゴルの首都であるウランバートルに住んでいる人々の日常生活

活は日本の生活と異なる点は極めて少ないと思われれます。しかし、どう変わっても、肉を主食とする昔から代々続けてきたモンゴルの食生活は今でも変わっていません。

私は去年の九月から日本に留学しています。その時から、日本人の友達を作るたび、ほとんどいつも聞かれる質問は「モンゴル人は学校まで馬に乗って行きますか？モンゴル人の住宅は電気使えますか？」という質問でした。その時、「私は一度も馬に乗ったことはありません！」と答えると、皆が非常に驚いた顔をするのに今はもう慣れてしまいました。モンゴルでモンゴル人が馬に乗ったことがないと言えば、都会の人らしく感じられますが、外国で自国の歴史や伝統的な文化を知らないというのは本当に恥ずかしい事だと私は留学後認識できました。また、先ほど言ったモンゴルの発展に伴い、我が国の自然は日々破壊されています。皆さんが想像している自然豊かなモンゴルは今深刻な環境問題に直面しているのです。

つまり、ここで言いたいことはモンゴルがもう日本の日常生活と肩を並べるようになったので、モンゴルに対するイメージを変えて欲しいということではなく、本当のモンゴルは今どのような状態になっているかを理解してもらいたいということです。このように、留学生の使命としてこれからも日本に留学している間、自国の伝統的な文化や素晴らしい歴史をより多くの日本人や外国人に紹介していきたいと思えます。以上です。ご清聴ありがとうございます。

皆さんは一つの願いがかなうとしたら、どんなことがしたいですか？私は高校生の時、ずっと子どもになりたかったです。なぜかという、子どもなら、大きい悩みがありませんので、毎日遊んだり、生活を楽しく送ったりすることができからです。しかし、大学の三年生の時、ボランティアとして養老院に行ったことをきっかけにして、その願望をやめました。養老院でお年寄りに会い、「人が年を取ったら、子どもに戻る」というサイクルの話聞きしました。最初はあまり理解できませんでしたが、何回も養老院に行っているうちに、ある日、両親のことを思い出しながら、そのサイクルの意味が実感できるようになりました。

まず、私が見つかった一つ目は、両親が年を取った時、ずっと一人でしゃべったり、同じことを何回も聞いたり、繰り返したりすることがあるでしょう。例えば、朝は「昨日、どこ行ったの」、昼は「昨日、昼寝の時、会ってなかったね、どこ行った」、夜は「昨日、声が聞こえなかった、どこに行ったの」ということがよくあります。その時、私がしないといけないことは何回もゆっくり答えることだろうと思っています。なぜなら、私が子どものころ、毎日朝から晩まで、ぺらぺらおしゃべりしたことを思い出したからです。「パパ、私どこから来たの？」「マ

マ、夜になると太陽はどこに帰るの？」いくらしつこく聞いても、両親は穏やかに教えてくれました。「お父さんが君を見つけて、連れて帰ったんだよ。」「太陽は仕事が終わったら、家に帰るよ。だから、君も太陽と同じように学校が終わったら、すぐ帰るんだよ」。だから、今後、どのような仕事をして、忙しい時も、暇な時も両親とよく話そうと自分に約束しました。

次に、分かった二つ目は、時間がたって、両親の体がどんどん弱くなり、自分で日常生活さえできなくなるかもしれないことです。例えば、急に天気が変わると、すぐ病気になってしまったり、食事する時、食べるのが遅く、周りに多くのご飯を散らしたり、様々なよくない状況がありかねません。その時、必ず両親の近くにおいて、両親を世話しなければならぬと思います。なぜなら、私が病気になった時、両親はおいしいお粥を作ったり、寝ずに看病したりしてくれたからです。その上、私が生まれたばかりの時、母に毎日母乳を少しずつもらい、父に言葉を一文字ずつ教えてもらい、数えきれないことをしてもらいました。そういうわけで、両親への感謝を表すために両親を世話しなければいけないと思います。

その他に、分かった三つ目は、ある日両親が誰にも言わずに出かけ、道に迷い、帰られない恐れがあります。その場合は、どのぐらい時間がかかっても諦めずに、両親を探して連れて帰ります。過去を振り返ると、私が生まれて以来、どこで道に迷っても、両親が必ず探しに来てくれたからです。そのことに関して、五歳の記憶を思い出しました。ある冬の日に、朝母に叱

られましたので、午後泣きながら、家族に知らせずに、知り合いのお姉さんの家に行きました。その日、ちょうど彼女も一人で家にいましたので、二人だけで遊び、衣装戸棚の中で一晚寝てしまいました。朝起きて帰った時、家にたくさん警察官がいて、ビックリしました。母は私を見て泣き続け、一週間後、病気になってしまいました。その時、両親は私を心配し、徹夜して探したそうです。今でもそのことが忘れられなくて、もう二度とやるまいと思いました。そして、何があっても、両親が迷ったりしないように。迷ったら力の限り両親を迎えに行くと自分に約束しました。

以上は養老院に行つて両親について考えたことです。そして、両親が九カ月と十日間おなかの中にいる私を大変待ったこと、晴れた日も雨の日も心配してくれたこと、両親の苦勞も分かりましたので、速く成長して、両親に恩返しをしようと思っています。しかし、それは両親に絶対見せないようにしようと思います。なぜなら、両親は私を何も言わず育ててくれているので、私も両親に何にも言わず返そうと思ったからです。そして、どうしてか分かりませんが、他の人に言葉で恋愛感情を表すことより、両親に「愛している」と言いにくいからです。

皆さんのご両親はお元気ですか。あなたはよく両親に連絡したり、会ったり、話したりしていますか。できれば、両親の悩みになることをしないでください。何と言っても、私たちが今ここにいるのは、両親にたくさんお世話になったからではないでしょうか。

中日飲食文化比較

ビジネスマネジメント学群 張 祥

俗に「食糧は人々の生活で何よりも大切」と言いますが、中国と日本は文化的にも地理的にも密接な国として、飲食文化にも共通点があります。中国食文化と日本食文化は同じアジア圏文明の産物です。日本の文化の中で、中華文明から受け継ぐモノは多く、もちろん飲食文化も例外ではないです。しかし、日本は創造力が豊かな国です。特定な地理と有限な自然資源のため、日本人は自然と人に特別な悟りを持っているのです。私は中日の飲食についての比較をし、これを通じて両国の文化観念をもっと理解したいです。

日本料理で重視されるのは材料の元の味、場合により生で食べるのが一番いい選択です。中国は違う。色々の方法で調理して食べます。中国料理は火の文化、日本料理はカタナの文化です。沢山の国の人にとって、火は人類の開化の起源で生でものを食べるのは野蛮すぎると考え、ここから大きな違いが生まれました。

日本人は外国料理のいい部分を積極的に吸収し、自分の味覚を変化させます。日本人は色々な味に強い好奇心をもっていて、美味しいと思ったら、たとえ外国のものでも積極的に吸収します。彼らは綿密な思考と特別なデザインで表現します。今の日本で作ったパンのある種類は

欧米よりも美味しいです。また、日本のリンゴはアメリカから輸入しましたが、品種改良を重ね日本の「富士」を作り、世界から好評を受けました。しかし、中華料理は今だに中国人が感嘆するようなものはありません。ラーメンの領域は日本の方が上です。日本料理は季節感を含めていて、日本人は違う「季節」を楽しめます。例えば、春は野菜の天婦羅を食べ、体に春の気配が満ちていきます。中国人は飲食は適当な時間、適当な温度で食べます。そのため飲食と中国医学を結び合わせて独特な「食療」を発明しました。

日本料理のもう一つの特長は食器を重んじることです。日本人は口だけではなく、目でもものを食べます。同じ陶器、磁器として、中国人は持つて楽しむことは重んじていません。味わうとは、視覚と味覚の共同が必要です。目で見てるのは決して料理そのものだけではなくて、食器も見ているのです。この方面ではわれわれは日本に学ぶべきです。

素朴さと、自然の味と洗練された文化の集合、これが日本料理です。中国は四千年の歴史があるとよく言われて、中国の食文化も確かに深い背景があります。中国の飲食は種類が豊富で、海のように底がないと言っても過言ではありません。

私達はこうした違いを見て、中日文化の違う点を考えることによって、日本という国を少し深く理解することが出来ます。中国人はもつと母国の文化も外国の文化も深く研究するべきで、そうすればもつと外国人と上手く交流できるし、もつと国の経済発展に貢献できると思います。

私の留学生活

留学生別科 章 佳麗

中国語に「白馬過隙——戸の隙間から白馬が走り去るのをながめるがごとし」ということわざがあります。あつという間に、日本に来て間もなく一年になります。若し今回のスピーチコンテストがなければ、過去の一年のことを振り返ることもできませんでした。この一年間に、私は色々な経験をしました。

大学に入って日本語を専門科目とした時から、日本へ留学したい気持ちを持っていました。私は、日本の漫画に夢中になることもないし、日本の歴史に非常に興味があることもありません。ただ、流暢な日本語を話せるようになるために日本に来ました。上海で日本語を勉強していた時、友達が日本人とべらべら話すことが非常に羨ましかったのです。

若者はいつも新しい環境に新鮮さを感じ、新鮮な物事にいつも好奇心があります。日本に来た後、一番感動した事は日本社会の礼儀だと思います。例えば、「おはようございます」、「こんにちは」、「失礼いたします」、「おやすみなさい」、「ただいま」などのたくさんの挨拶の言葉は、十分に「礼儀」を表しています。もう一つは、日本では車も自転車も人もお互いに譲ることが普通です。ある時、車が私の前で止まって、運転手さんが「お先にどうぞ」という表情を

しました。その時、私は本当に心から感動しました。

来たばかりの頃の期待感に反して、来た後の失望感と挫折感もあります。

日本語の専門の学生としての私は、日本語を勉強してもう四年間ぐらいいです。日本に来た後、自分の日本語のレベルは専門レベルに達していないことに気づきました。一年間勉強して、私のレベルよりできるクラスメートもいます。その時はとても苦しい気持ちでした。

また、留学生にとって勉強しながらアルバイトをすることは普通だと思います。アルバイトは留学生生活と切っても切れなくて、重要な部分だと思えます。なぜかという、アルバイト中に、日本人と触れ合う時間が長く、話す力が上がるいいチャンスだし、アルバイトを通して、日本人と中国人の考え方の違いが分かるし、それに、日本の文化、伝統的な習慣などを味わうことができます。しかし、実はアルバイトを始めてから自分の大雑把な仕事の態度に気づきました。日本人の仕事に対する真面目な態度は世界に認められています。私は気づいた後、もっと注意するようになりましたが、まだ満点のほめをもらえません。日本人の厳しい態度と比べて自分の不足を強く感じます。同時に日本人が自分の仕事に熱心で、真面目にこつこつ働いている精神が感じられます。

思うようにならないこともありますけれども一年間の体験をして、いろいろな勉強もしました。今は自分の不足な所がはつきりわかります。今後は、毎日の時間を無駄にせず、役に立つ

知識を勉強して、積極的な態度で、有意義な留学生活を送り、自分の努力によって、美しい理想を実現させるようにしたいと思います。大切なことは昨日の自分より進歩があればもう十分だということです。

いらっしやいませ！

交換留学 エルベグダワー ソヨルマー

皆さん、こんにちは。私はモンゴルから来たエルベグダワーソヨルマーです。私は四月一日に日本に来ました。日本やいろいろな国々の学生と一緒に勉強したり、友達になったりして、本当に嬉しいです。

さて、皆さん、私がどうして「いらっしやいませ」ということばを、スピーチの題名に選んだのだろうか、と思っていませんか？それは、日本とモンゴルの文化の大きな違いで、とても面白いことだからです。

日本では料理屋などのお店に入ると、店員さんが「いらっしやいませ！」と大きい声で叫びますね。ここにいる皆さんの国ではどうか分かりませんが、モンゴルではこのように大きい声で叫んだら、入ってきたお客さんは出て行ってしまうかもしれません。もし、モンゴルでこういうことがあったら、私は「バカだ」と言ってしまうです。私は日本に来たばかりのころ、お店の中で大きい声で「いらっしやいませ！」と、店員さんが言うのを聞いたとき、「いちいちめんどくさいな。いつもこのように叫んで疲れないのか。」と思っていました。

しかし、私は先月からお好み焼き屋でアルバイトを始めて、店員になりました。そこで一番

大切なことは「声を出す」ことです。こういうことになれていない私にとっては、この「声を出すこと」が一番難しいことです。

バイトの初日、私は先輩と声を出す練習をしました。「だめです。だめです。」と何回も言われました。「あなたはお父さんから叱られる子どもじゃないでしょう。高校生じゃなくて、もう大学生でしょう。友達の中では大きい声で話すでしょう。」など、何回も何回も注意されました。

お客さんが入ってくる時、そして帰る時は、誰かが「いらっしやいませ！」、「有難う御座いました！」と言うのですが、私は小さい声でしか言うことができせん。すると、先輩たちがわざわざ私のそばに来て、とても大きい声で叫びます。また、「いらっしやいませ」だけではなく、お客さんが帰る時も、皆忙しく働いていても大きい声で「有難う御座いました！」と言います。これも私には難しいです。

バイトの仕事は簡単で楽しいですが、声を出すことは本当に難しいです。私は毎日声を出す練習をしました。そうして、私は声を出すことを諦めてしまいました。「ああ、声を出すのはもう嫌だ。」なんて思っていたこともありましたが、でも、一週間、二週間経つと、いつの間にか自分も皆と同じような大きい声で「いらっしやいませ！」、「有難う御座いました！」と言えるようになりました。私は「やっと仕事になれてきたな。」と思いました。

そして、私はこの時「郷に入っては、郷に従え」ということわざの意味が本当に分かりました。日本にいるうちに、このような日本の文化や習慣をもっともっと勉強しなければならぬと、私は思っています。

「いらつしやいませ！」

ご静聴「有難う御座いました！」

初心忘るべからず



留学生別科 兪 天昊

皆さん、こんにちは。桜美林大学留学生別科に所属しております兪天昊と申します。本日は「初心忘るべからず」というテーマでスピーチをさせていただきますと思います。よろしくお願いたします。

「初心忘るべからず」を知らない日本人はいないと思いますが、それは日本の伝統芸術の能楽を大成した世阿弥が言った言葉です。意味といえば、「初心忘るべからず」とは、何事においても、始めた頃の謙虚で真剣な気持ちを忘れてはならないという戒めです。実は、中国にも同じ意味の諺があります。それは「勿忘初心」です。

さて、私たち留学生にとって、「初心」というのは一体何でしょう。皆さんはまだ日本に来たばかりの時の姿を覚えていますか。意気込んで、私は将来何大学・何大学院に行くとか、私は日本人の友達をいっぱい作るとか、私はアルバイトして生活費を稼いで自立するとか、きつと言っていましたよね。

しかし、今はどういう風に暮らしていますか。まだ張り切って元気いっぱいだった言葉を、言っていた夢を実現させるために頑張っていますか。そうではないでしょう。日本にい

る期間が長くなり、日本に慣れてくるにつれて、自分自身の心も意志も微妙に変わってきましたよね。「目指していた大学に入るのは難しくてね、もう他の大学にしたの」とか、「日本人と友達になるの難しいね。だって雰囲気全然違うんだもん」とか、「バイトで疲れてるから、辞めたいな」とか、「今日は疲れたから学校はいいや」とか、そういう声をよく聞きます。私には病気を理由にして、授業をサボって、何ヶ月も中国に戻っている中国人の友達もいるんですよ。

私も最近「何で日本に来たか」という問題でよく悩んでいました。五月はすでに過ぎたのに、五月病が続いて元気が出せないままで生活していました。「何で交換留学生が毎月十万円以上の奨学金がもらえて、気楽に生活できるのに、私はアルバイトをやらなければならぬの」とか、「何で自分の出身校はそんなに有名じゃないの」とか、「何でいつもやることを明日に延ばしているの。色々本を読みたいのに、色々やりたいことがあるのに」とかを考えていました。私も大きな夢を持って日本に来た留学生の一人ですが、私はもう駄目なんでしょうか。いえ、そんなことはないんです。皆さんも自分の右手を心臓のところにおいて、心臓の鼓動を感じながら自分が生きている意味を真剣に考えてみましょう。きっと心のどこかにもととの夢が隠されているでしょう。それは初心です。あなたが日本にやってきた初心です。

ですから、「初心」とは夢です。よく「初心」を振り返らないと、忘れられてしまうかもしれません。

「初心」というのは人生にたった一つとは限りません。人生において、違った段階には違った「初心」があります。人生はそういう数多くの「初心」の重なりで成り立っているわけです。

以上は私から見た「初心忘るべからず」から考える人生への意義です。

ご清聴ありがとうございました。

講評と賞の概要

桜美林大学日本語文化学院 専任教員 石塚 美枝

今回のスピーチコンテストは、学群正規留学生六名、交換留学生三名、留学生別科生五名の計十四名が参加してくれました。これまでのコンテストに勝るとも劣らないバリエーション豊かな内容で、大変聴き応えのあるスピーチコンテストになりました。

外国語でスピーチをするということは、その言語の言語的なレベルだけでなく、内容に独自性や深みがあるか、それを聴いている人に伝えることができたかどうかが重要です。もちろん緊張に打ち勝つ勇気や度胸も必要です。むしろ日本語が上手でも、自分の思いを伝えることができれば良いスピーチとは言えないでしょう。その点では、今回一位に輝いた曹雪倩さんは、真の豊かさとは何かについて自分の体験を交え、とても分かりやすく聴衆に伝えることができました。スピーチとして総合的に完成度が高かったと言えます。また、二位のフレルバトル・サインサナーさんは、故郷モンゴルについて日本に留学したからこそ改めて考えたことを、スケッチブックの絵を見せながら生き生きと話してくれました。彼女の笑顔を見ながらモンゴルの風景を思い描いた人も多かったと思います。そして三位の兪天昊さんは、来日したばかりの時の新鮮な気持ち、初心を忘れずに目標達成のためにがんばろうと

いう内容のスピーチでしたが、聴いている私たちの心も新鮮になるような爽やかなスピーチでした。三名とも、とても良く準備をして自分の言葉としてスピーチができていました。

その他も、「具体的」や「いらっしやいませ」という日本語から日本文化や自分の文化について発見したこと、日本語学習のきっかけ、来日当初の様々な新しい発見やこれからの夢について、故郷の両親のこと、日中の食文化比較や源氏物語を読んだ感想など、内容のバリエーションが豊かで、留学生の皆さんがどんな視点で日本社会や日々の生活を見て感じているのが伝わってくる興味深いスピーチばかりでした。忙しい日々の中でスピーチを準備して披露してくれた出場者の皆さん、ありがとうございました。私たち審査員だけでなく、本学の在学生、地域にお住いの一般の方々など、スピーチを聴いている人たちが感心したり、楽しく笑ったり、感動したり、新鮮な気持ちになることができました。

出場者の皆さんの中には今回のスピーチについていろいろ反省したという人もいるかもしれませんが。また聴きに来てくれた留学生の中には次回挑戦しようと思った人もいるかもしれませんが。学業やアルバイトなどの合間にスピーチの準備をすることは大変なことですが、日ごろの成果を発表する場として、そして日本語で話す勇氣と自信を身につけるために、ぜひ多くの留学生にスピーチコンテストに挑戦してもらいたいと思います。

この場をお借りして、審査員を務めてくださったりベラルアーツ学群・張利利先生、基盤

教育院・久保田美映先生に御礼申し上げます。ありがとうございました。
留学生の皆さんの次回のスピーチを楽しみにしています。

第12回 桜美林大学留学生日本語スピーチコンテスト 文集

2013年12月24日発行

桜美林大学日本言語文化学院（留学生別科）

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1

TEL : 042-704-7041 FAX : 042-704-7033